

真宗大谷派 光福寺 川西市笹部二丁目十六ー十六

令和八年 七月発行 TEL ○七二ー七九四ー〇一八九

【人は死んだらどうなるの？】

人は死んだらゴミになるといった人がいます。いかにも唯物的な考え方ですね。事実はゴミではなく、灰になるのでしょうか。灰は事実で、ゴミは一つの価値観です。ゴミは無用なもの、不必要なモノの代名詞です。人間の最後がゴミならば、人間の存在はゴミへの途中ででしょうか。それにしても、なぜ私たちは「人は死んだらどうなるのか」と問うのでしょうか。おそらく、それは私たちがおきているのでしょうか。それは来た先と行き先を問いつつ、実は、現在の自分を問うているのです。

現在ただ今の自分がわからない、その迷いが「人は死んだらどうなるのか」と死後を問わせるのです。インドに古くからある輪廻（りんね）の考え方は、そういう問いに、靈魂不滅の立場から、生まれ変わり死に変わりする人間の在り方を示すものです。それは、死後のよき再生を願って、いまの不幸を耐えて来世のために頑張りたいと教えます。

日本においては、人は死んだら霊となり、その霊となった死者に対して、生者が慰霊・鎮魂・祭祀をしないと、死者に祟られ、災いをもたらされると考えられています。それはこの世の吉凶禍福がすべて霊の支配下にあるとする考え方です。

インドの輪廻の思想も、日本の霊の宗教も、いずれの場合も、この現在の矛盾と不正と過ちを作り上げてきた私たち自身の愚かさに目を向けることを妨（さまた）げています。それに対して浄土真宗の教えは、我は「煩惱具足（ぼんのうぐそく）の凡夫（ぼんぶ）」、我が世は「火宅無常（かたくむじょう）の世界」である、どこまでも過去を背負い、未来をはらむ自分のこの「現在」をごまかさず問うものであります。そのような自分の「現在」を問わないで「人は死んだらどうなるのか」と考えることは、私たちを出口のない路（みち）に迷わせ、神秘的な世界に惑わすこととなるだけでしょう。

同朋大学特任教授 尾畑 文正

聞法会

聞法会

永代経法要

7月13日

9月28日

10月24日

(月) 午後1時～午後3時迄

(月) 午後1時～午後3時迄

(土) 午後1時半～午後4時

涅槃堂永代経納骨・墓地・見学受付中

お参りをお待ちしております

